



空き校舎の利活用の検討に 透明性ある市民参加を

松尾 万葉香

問 来年度より、武蔵台・高根・高麗の小・中学校の統合が予定されている。空き校舎の活用は、その地域を今後どのように活性化していくかを方向づける重要な議論であり、地域住民からも高い関心が寄せられている。住民ニーズを汲みながら、意欲ある事業者やボランティア等と協働することが望まれるが、市民参加の機会は。

き方改革について

問 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部改正を受け、令和6年までに教職員の残業時間を月45時間に削減する目標が掲げられた。これは在校時間のみを対象にしているが、家に持ち帰り仕事をされている先生が大半である。残業時間の実態把握が必要では。

問 子どものマスク着用の是非については色々な考えがあるが、市の見解は。

答 マスクを「したい」「したくない」「できない」いずれの子どもにとっても、学校生活が息苦しいものとならないよう、指導・配慮に努めたい。

問 他人の衣類から香る柔軟剤等の香料による身体症状に苦しむ子どもがいるが、対応は。

答 保護者に向けて、学校だよりや保健だより等を通じ啓発していく。

問 登下校の支援について、国は教師が担う必要はないとしているが、実際は先生方の多くの時間が割かれている。保護者に理解や協力を求めるべきでは。

答 必要に応じて、ホームページやメールで周知及び啓発を行うっていく。

問 WEBアンケート等での調査を検討する。

答 今年度は、市民3千人を対象にアンケートを実施する。令和5年度は、市民懇談会と、事業者対象の話し合いや調査を平行して実施する。

問 検討過程をつまびらかに公開し透明化を図ることが、住民の納得感や今後の地域づくりへの活カにつながるのでは。

答 段階に応じて積極的に情報提供していく。

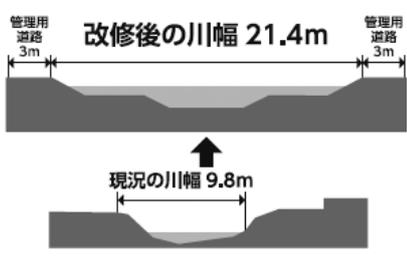
小・中学校における働

みずもの心身の発達への配慮について

香害の啓発ポスター



出典：消費者庁・他4省庁



小畔川の河川改修

小畔川河川改修事業による 治水対策

山田 一繁

問 一級河川、小畔川の別所橋から境橋間の河川改修事業の計画は。

答 県の計画内容は、別所橋から境橋までの約600mの区間を現在の川幅の平均約10mから21.4mに拡幅し、両側には3mの管理用通路を築造する。総幅員は27.4mとする。河川の護岸はコンクリート製の積ブロックを設置した上で表面を土で覆い、自然に配慮した仕上がり

問 今年度の進捗状況は。

答 関係する地権者から用地を取得するため用地測量に着手し、併せて改修に必要な土地の調査を実施する。

来春開校・武蔵台小・中学校

問 哲学者カントは「ヒトは教育によって人間になる」と言う。次世代を担う子どもたちへの教育の充実こそ最重要課題である。来年令和5年度より武蔵台地区、6年度に高根地区、7年度に高麗地区で施設一体型義務教育学校が開校する。高麗川・高萩・高萩北地区では、令和7年度に施設分離型小中一貫教育校が開校するが、本市が取り組む小中一貫教育の特色は。

問 今年度の進捗状況は。

答 関係する地権者から用地を取得するため用地測量に着手し、併せて改修に必要な土地の調査を実施する。

問 「目指す15才像」は各地区により表現が異なるが、全地区・全校に共通する目指す人物像の核となるものは何か。

答 教育の役割とは、社会に出て独り立ちできる自立する力と、世のため人のために尽くそうとする利他の心を培うこと。昨年度、日高市教育ビジョンを「自らの力と人との絆で未来をつくる日高の教育」と定めた。自らの夢を持ち、人との絆を深め、その実現に向けて着実に学びや経験を積み、明るい未来を創造できる人を育むことを目指すもので、全地区・全校に共通する人物像の核であると考えている。

問 今年度の進捗状況は。

答 関係する地権者から用地を取得するため用地測量に着手し、併せて改修に必要な土地の調査を実施する。

一般質問の要約